

電気暖房機器電源コード断線などによる事故防止について

電気暖房器具の電源コードの断線などが原因で発火し火災となる事故が、NITE（独立行政法人製品評価技術基盤機構）の調べでは平成21年から平成25年の間に全国で75件発生しています。

このような事案は電気製品全般に多くみられる事故ですが、電源コード付け根付近や温度コントローラ付け根付近の屈曲、家具等の重量物による荷重によって電源コードに負荷がかかり、コード芯線が断線し、スパークが生じて発火するといったものです。

福井県内においても平成22年に電気カーペットによる火災が2件、平成25年に電気あんかの電源コードによる火災が1件ありました。

電源コードは被覆が施されており、内部が断線していても外観からは分かりにくい部分です。もし被覆の内部で断線が起っていた場合、それに気づかず使用し火災事故に至るという可能性があります。

そのほかにも、電源コードによる事故を防止するために、次の点に十分気を付けてください。

—電源コードの取り扱いの注意点—

- ・ 無理に曲げたり、ねじったりしないでください。
- ・ 傷つけたり、重い物を載せたり、ドアなどに挟み込んだりしないでください。
- ・ 束ねたり、本体に巻き付けたりしないでください。
- ・ コンセントからの抜き差しは先端の電気プラグを持って行ってください。
- ・ プラグとコンセント等の間にたまったほこり等は取り除いてください。
- ・ 取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。

※ NITE では次のように注意を呼びかけています。

参照：NITE ホームページ（http://www.nite.go.jp/jiko/leaflet/data/winter_2014.pdf）

